教科	科目	授業時数	対象学年
国語	国語	4	1年

1．学習の到達目標等

到達目標	様々な文章に触れ、表現の世界への理解を深める。 口語文法を正確に理解し、古典文法にも活かせるようにする。
目標を達成するための留意点	授業を大切にすることを基本とし、必要な物を準備し、主体的に授業に参加する姿勢を付ける。授業中は、教師の説明や指示を注意深く聞き、またグループ学習において、他者の意見を聴き、自分の考えを伝えることが出来る力を身につける。ノートは板書や教師の説明等を、丁寧な字で確実に書くようにし、復習時に要点が理解できるものを作る。 家庭学習において、授業時に出された課題等に丁寧取り組み、復習をする習慣を身に着ける。
使用教科書	『国語 1』　（光村出版）　『新しい書写一・二・三年』（東京書籍）
使用副教材	『実力練成テキスト 国語１年』（文理）　『常用漢字クリア』（尚文出版） 『新国語便覧』（第一学習社）　『論理エンジンＯＳ１』（水王舎）
評価基準	「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の観点に基づき、小テスト及び中間・期末テスト・提出物・授業に対する姿勢などを総合的に判断して評価する。
学習内容	言語知識　・常用漢字の習得 文法　・文節相互の関係、文の成分を学習する。 単なる知識ではなく、文章を読む上で、学んだ文法知識を活用することが出来るよう取り組む。 口語文法が文語文法の基礎となるということをしっかりと意識出来るようになる。 詩歌　・詩や和歌の特徴をとらえ、言葉の感覚を豊かにする。 文学的文章　・表現に注意し、情景や心情をとらえる。 ・作品の展開をとらえ、状況や人間関係を理解する。 説明的文章　・文相の構成や要旨をとらえ、目的や必要に応じて要約する。 ・事実と意見を区別し、筆者のものの見方や考え方を理解する。 古文　・言葉や仮名遣いなどの違いをとらえ、比較的馴染みのある文章を通じて、古典の文章に親しむ。

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年	国語	詩	「野原はうたう」等		■			1学期中間考査					1学期期末考査								2学期中間考査						2学期期末考査								学年末考査		
		物語	「はじまりの風」等			■	■																													
		説明文	「ちょっと立ち止まって」等				■		■																											
		古文	いろは歌							■																										
		詩	詩の世界　等								■	■																								
		読書活動・物語	「あと少し、もう少し」等									■		■																						
		説明文	「比喩で広がる言葉の世界」等														■	■																		
		物語	「星の光が降るころに」等															■	■	■																
		記録・説明文	「言葉をもつ鳥、シジュウカラ」等																	■			■													
		古文	竹取物語																				■	■												
		随筆	「随筆二編」等																					■	■											
		説明文	「『不便』の価値を見つめなおす」等																						■		■			■						
		物語	「少年の日の思い出」																												■	■	■	■		
		言語知識	漢字・文法等		■	■	■		■	■	■	■		■			■	■	■	■			■	■	■	■		■		■	■	■	■	■		■
		書道	書写																								■								■	

教科	科目	単位数	対象学年
社会	地理・歴史	4	2

1．学習の到達目標等

到達目標	広い視野に立って，社会に対する関心を高め，諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、倭が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い，国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。
目標を達成するための留意点	知識に偏りすぎた指導にならないように，基本的な事項・事柄を厳選して指導内容を構成していく。生徒の主体的な学習を促し，課題を解決する能力を一層培うため，各分野において，適切な課題を設けて行う学習の充実を図る。社会的事象の特色や事象間の関連を説明する学習を通して，言語活動の充実を図る。資料を選択し活用する学習活動を重視するとともに作業的，体験的な学習の充実を図る。その際，情報モラルの指導にも配慮する。教育基本法第 14 条及び第 15 条の規定に基づき，政治及び宗教に関する教育を行う。
使用教科書	・新しい社会　地理（東京書籍） ・新しい社会　歴史（東京書籍）
使用副教材	・アクティブ地理総合（浜島書店） ・基礎をきずく地理②　東京書籍版（浜島書店） ・つながる歴史（浜島書店） ・基礎をきずく歴史②③　東京書籍版（浜島書店）
評価基準	知識・理解／思考力・判断力・表現力／主体的に学習に取り組む態度　それぞれの項目に関して，授業・定期考査・課題等を通して総合的に評価する。
学習内容	[地理]　第 3 編　日本のさまざまな地域 第 1 章　地域調査の手法 第 2 章　日本の地域的特色と地域区分 第 3 章　日本の諸地域 1 節　九州地方　2 節　中国・四国地方　3 節　近畿地方　4 節　中部地方 5 節　関東地方　6 節　東北地方　7 節　北海道地方 第 4 章　地域の在り方 [歴史]　第 4 章　近世の日本 2 節　江戸幕府の成立と鎖国　3 節　産業の発達と幕府政治の動き 第 5 章　開国と近代日本の歩み 1 節　欧米における近代化の進展　2 節　欧米の進出と日本の開国 3 節　明治維新　4 節　日清・日露戦争と近代産業 第 6 章　二度の世界大戦と日本 1 節　第一次世界大戦と日本　2 節　大正デモクラシーの時代 3 節　世界恐慌と日本の中国侵略　4 節　第二次世界大戦と日本 第 7 章　現代の日本と私たち 1 節　戦後日本の出発　2 節　冷戦と日本の発展 3 節　新たな時代の日本と世界

２．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2	社会	地理 第3編	第1章		■																																
			第2章		■	■																															
			第3章 1節			■	■																														
			第3章 2節				■																														
			第3章 3節						■																												
			第3章 4節						■	■																											
			第3章 5節							■	■																										
			第3章 6節								■	■																									
			第4章									■																									
		歴史	第4章 1節											■			■																				
			第4章 2節														■	■																			
			第5章 1節															■	■																		
			第5章 2節																■	■																	
			第5章 3節																	■		■															
			第5章 4節																			■	■														
			第6章 1節																				■	■													
			第6章 2節																					■	■												
			第6章 3節																								■			■							
			第6章 4節																											■	■						
			第7章 1節																												■	■					
			第7章 2節																														■	■			
			第7章 3節																															■	■		

1学期中間考査

1学期期末考査

2学期中間考査

2学期期末考査

学年末考査

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学②（図形）	2	1年

1．学習の到達目標等

到達目標	・下記学習内容を理解させ，基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。特に，「基本的な作図，空間図形の見取り図・展開図・投影図の描き方，基本的な図形の計量」についての技能を習熟させるとともに，論理的に考察し表現する能力を培う。 ・学力推移テストで偏差値 55 以上が取れる習熟度を目指す。
目標達成のための留意点	図形について，観察，操作や実験などの活動を通して，直感的な理解を深めるとともに，「なぜ？」を大切にし，論理的に考察し，表現する力の育成を目指すこと。
教科書	これからの数学1（数研出版），これからの数学 2（数研出版） これからの数学1探求ノート（数研出版），これからの数学2探求ノート（数研出版）
副教材	体系数学Ⅰ幾何編（数研出版） 体系数学問題集Ⅰ幾何編（数研出版）
評価方法	定期考査，小テスト，提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また，課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し，総合的に評価する。
授業内容	1．平面図形 基本的な作図の方法を理解し，それを具体的な場面で活用できるようにする。また，図形の移動について理解し，二つの図形の関係について調べる。 2．空間図形 直線や平面の位置関係，空間図形の構成と平面上の表現（投影図），図形の計量などについて学ぶ。 3．図形の性質と合同 図形の基本的な見方や性質を理解するとともに，証明の意義とその進め方について学ぶ。 4．三角形と四角形 平行線や三角形（二等辺三角形，直角三角形など），四角形（平行四辺形など）の性質を明らかにし，その性質を活用できるようにする。

2．指導計画

科目	項　目	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
数学②	平面図形		■	■	■	1学期中間試験	■	■	■	■	1学期期末試験	■									2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
	空間図形																■	■	■	■		■															
	図形の性質と合同																						■	■	■		■									■	
	三角形と四角形																													■	■	■	■	■			

教科	科目	単位数	対象学年
理科	理科①	2	2年

1．学習の到達目標等

到達目標	1．物質の成り立ちや様々な化学変化をを観察を通して理解させ，化学変化と分子・原子についての認識を深めるとともに，物質の世界について理解させる。 2．回路の基本的性質や、電圧と電流との関係について規則性を見出させる。 3．静電気と電流には関係があることを見出させ、電流の正体について理解させる。 4．電気の磁気作用や電流と磁界との相互作用を理解させる。 5．電気分解の実験より、イオンの存在を知り、イオンの生成と原子の構成が関係することを理解する。 6．イオンのモデルを用いて電池の原理が説明できるようにする。 7．酸やアルカリの特性が水素イオンと水酸化物イオンによることを知らせる。 8．酸とアルカリが反応すると水と塩ができることを知るとともに、中和反応をイオンのモデルを使って説明できるようにする。 9．２力がつり合う条件を理解させる。作図によって合力を求めることができるようにする。また、分力の求め方を理解させる。 10. 物体の速さや運動の様子を調べる方法を身につけさせ、物体にはたらく力と運動の関係を理解させる。 11. 仕事の量の求め方を理解させ、仕事の原理を見出させる。 12. エネルギーの定義を理解させ、力学的エネルギー保存の法則を理解させる。
目標を達成するための留意点	知識獲得を最終目的とするのではなく，獲得した知識を活用し，考察することに意識を向けさせるように指導する。
使用教科書	「未来へひろがるサイエンス２」(啓林館) 「未来へひろがるサイエンス３」(啓林館)
使用副教材	「中学実力練成テキスト　２年」(文理) 「中学実力練成テキスト　３年」(文理)
評価基準	＊関心・意欲・態度 ＊科学的な思考・表現 ＊観察・実験 ＊知識・理解 の４つの観点と定期考査，課題，授業への参加姿勢などを基に総合的に評価する
学習内容	◇　化学変化と原子・分子 第１章　物質の成り立ち 第２章　物質の表し方 第３章　さまざまな化学変化 第４章　化学変化と物質の質量 ◇　電流の性質とその利用 第１章　電流の性質 第２章　電流の正体 第３章　電流と磁界

	◇　化学変化とイオン 　　第１章　水溶液とイオン 　　第２章　酸・アルカリと塩 ◇　運動とエネルギー 　　第１章　力のつり合いと合成・分解 　　第２章　力と物体の運動 　　第３章　仕事とエネルギー 　　第４章　いろいろなエネルギーとその移り変わり 　　第５章　エネルギー資源とその利用

２．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
化学変化と原子・分子	化学変化と物質の量	■		1学期中間考査		1学期期末考査					2学期中間考査		2学期期末考査				学年末考査	
電流とその利用	電流の性質		■															
	電流の正体				■													
	電流と磁界				■		■		■									
化学変化とイオン	水溶液とイオン								■	■								
	電池とイオン									■		■						
	酸・アルカリと塩											■		■				
運動とエネルギー	力の合成と分解													■				
	物体の運動														■			
	仕事とエネルギー														■	■		
	多様なエネルギーとその移り変わり															■		
	エネルギー資源とその利用																	■

教科	科目	単位数	対象学年
理科	理科②	2	2年

1．学習の到達目標等

到達目標	観察，実験を行い，観察・実験技能を習得させ，観察，実験の結果を分析して解釈し表現する能力を育てるとともに，事物・現象に対する科学的な見方や考え方を養う。
目標を達成するための留意点	知識獲得を最終目的とするのではなく，獲得した知識を活用し，考察することに意識を向けさせるように指導する。
使用教科書	「未来へひろがるサイエンス２」（啓林館） 「未来へひろがるサイエンス３」（啓林館）
使用副教材	「中学実力練成テキスト理科　中２」（文理） 「中学実力練成テキスト理科　中３」（文理）
評価基準	行動観察，発言，発表，自己評価，マイノート，レポート，ワークシート・小テスト・定期テストなど
学習内容	・天気の変化を考えるうえで重要な，水に関する実験や考察を通して，天気について考える基礎を身に付けさせるとともに，大気や天気の変化が日本の四季に与える影響を理解させ，気象についての認識を深める。 ・生物のふえ方に関する観察・実験・考察を通して，生物の成長や遺伝の規則性を理解し，生命の連続性についての認識を深める。 ・太陽や月の観察や，惑星やその他の恒星などについての学びを通して，地球をとり巻く天体についての理解を深め，それぞれの天体の自転や公転などの運動について理解することにより，地球から見える天体の動きなどについての認識を深める。 ・自然界の生物どうしのつながりや，物質の影響で環境が形成されていることを知り，発展しつつある科学技術や様々な物質の中でも，持続可能な社会を目指して社会に関わっていくための認識を深める。

2．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
地球の大気と天気の変化	地球をとり巻く大気のようす			1学期中間テスト		1学期末テスト					2学期中間テスト		2学期末テスト				3学期末テスト	
	大気中の水の変化																	
	天気の変化と大気の動き	■																
	大気の動きと日本の四季		■															
生命の連続性	生物のふえ方と成長				■		■											
	遺伝の規則性と遺伝子								■									
	生物の種類の多様性と進化									■								
自然と人間	自然界のつり合い											■						
	さまざまな物質の利用と人間													■				
	科学技術の発展														■			
	人間と環境															■		
	持続可能な社会をめざして															■		■

教科	科目	授業時数	対象学年
保健体育	体育	3	2年

1．学習の到達目標等

到達目標	心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てると共に、健康の保持増進のための実践力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
目標を達成するための留意点	・いろいろな運動の基礎・基本を学ぶ。 ・練習やゲームの方法を工夫して、友だちと協力して互いに教え合う。 ・傷害の発生と防止や生活習慣と健康の関わりについて知り、自己の生活に生かす。
使用教科書	最新 中学保健体育（大修館）
使用副教材	
評価基準	【知識及び技能】 ・運動の技能が優れている。 ・運動の基礎基本を確実に身に付け、実際に向上することができる。 ・運動の方法や健康・安全についての知識を学び生かすことができる。 ・体育的知識（トレーニング理論、スポーツ理論）を習得し生かせる。 【思考力，判断力，表現力等】 ・自己の評価を見つけ、解決の方法を工夫できる。 ・目標を決め、計画を立て、工夫して取り組む。 ・自分勝手でなく、仲間と協力して楽しい活動を進める。 ・安全に留意し、危険を避けることができる。 【学びに向かう力，人間性等】 ・進んで運動を実践し喜びを味わうことができる。 ・体力づくりに関心をもち、意欲的に運動する。 ・集中して頑張るとともに、最後まで力強くやり抜く。 ・授業の決まりや集団行動のマナーを守って活動する。 上記の観点を踏まえ、授業の取り組み（授業態度や学習活動への参加状況）、各期末考査による理解度、学習到達度の評価、課題の提出状況などから総合的に判断します。
学習内容	下記の　2．指導計画参照。 【保健】傷害の防止、健康な生活と疾病の予防③、 【体育理論】運動やスポーツが心身の発達に与える効果と安全、文化としてのスポーツの意義

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2	体育	集団行動						1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
		体つくり運動																																					
		新体力テスト																																					
		陸上																																					
		ダンス																																					
		球技																																					
		保健	健康と環境																																				
		体育理論	運動やスポーツの効果と安全																																				

教科	科目	授業時数	対象学年
音楽	音楽	1	２年

１．学習の到達目標等

到達目標	基本的な読譜・楽典事項を理解しよう。／楽器の特徴をとらえて鑑賞しよう。／各自の声を生かして合唱しよう。／アルト・リコーダーの基本奏法に慣れよう。／日本の伝統音楽を知ろう。
目標を達成するための留意点	◆平和学習の事前学習において、「平和と音楽」について学習する。 ◆合唱コンクールを通して、協調性、演奏会のプロセス、鑑賞マナーを身に付けさせる。 ◆鑑賞教室を通して、鑑賞のマナーや社会性を身に付けさせる。
使用教科書	中学音楽　音楽のおくりもの２・３上／中学器楽　音楽のおくりもの（教育出版）
使用副教材	なし
評価基準	◆＜各学期の評価＞実技１００点、提出物１００点、定期テスト１００点の３００点満点を３で割り、１００点満点の評点とする。授業の忘れ物・態度不良等は評点より減点する。教務の規定により１０段階、学年末は５段階評定に置き換える。　◆＜観点別評価＞各項目を次のとおりとする。Ⅰ…実技試験・その他実技の評価（**個別の知識・技能**）　Ⅱ…プリント・課題等の提出物の評価（**思考・判断・表現力**）　Ⅲ…定期テストの評価・出席状況・授業態度（**学びに向かう姿・人間性**）
学習内容	◆楽典（各教材の中で指導）：ヘ音記号のソルフェージュ／リズム打ち　◆歌唱教材：花の街／浜辺の歌／（合唱コンクールの曲）　◆鑑賞教材：「ボレロ」／「火星」／交響曲第５番／「小フーガ　ト短調」／雅楽「越天楽」／能「羽衣」　◆器楽教材：ヘ長調の音階／「オ「大きな古時計」／２重奏曲／鍵盤の演奏（フーガの主題、各種の音階）　◆オーケストラの楽器　◆音楽と著作権 ※今年度は芸術鑑賞のための事前学習（ミュージカル）を実施

２．指導計画

学年	科目	単元	4月 上	4月 中	4月 下	5月 上	5月 中	5月 下	6月 上	6月 中	6月 下	7月 上	7月 中	7月 下	8月 上	8月 中	8月 下	9月 上	9月 中	9月 下	10月 上	10月 中	10月 下	11月 上	11月 中	11月 下	12月 上	12月 中	12月 下	1月 上	1月 中	1月 下	2月 上	2月 中	2月 下	3月 上	3月 中	3月 下
2年	音楽	花の街(歌唱)	●	●																																		
		オーケストラの楽器		●	●																																	
		交響曲第5番「運命」(鑑賞)				●																																
		鑑賞教室事前学習						●																														
		「ボレロ」(鑑賞)							●	●																												
		「火星」(鑑賞)									●																											
		リコーダーの技術(器楽)					1学期中間考査					1学期期末考査	●									2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
		リコーダー　ヘ長調の楽曲(器楽)																●																				
		リコーダー　2重奏曲(器楽)																	●																			
		リコーダー　ヘ長調の楽曲(器楽)																		●																		
		浜辺の歌(歌唱)																			●																	
		平和学習のための事前学習																					●															
		合唱コンクール　準備～練習																						●	●	●		●										
		合唱コンクール振り返り																													●							
		雅楽「越天楽」」(鑑賞)																														●						
		能「羽衣」」(鑑賞)																															●					
		「小フーガ」(鑑賞)																																●	●			
		音楽と著作権																																			●	

教科	科目	授業時数	対象学年
美術	美術	1	２年

１．学習の到達目標等

到達目標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。
目標を達成するための留意点	＊ 学 習 上 の 注 意 ・ 助 言 ・自分の作品を大切にし、ねばり強く集中し、試行錯誤し、制作に取り組む。 ・提出物の提出期限は必ずまもる。 ・準備や後片付けをきちんと行う。(忘れ物をしない) ・計画的に作業し、予定どおりに作品を完成できるように努力する。 ・作品を早く仕上げることよりも、最後まで試行錯誤しながら工夫し、困難を乗り越え創り上げることを大事にしたい。 ・鑑賞の学習では、作者の心情やその背景にあるもの、表現の意図と工夫について考える。 ・作品について良さや美しさ、感じたことを友達とじっくり話し合う。 ・年３回の定期テストもしっかり準備して臨む。
使用教科書	美術２・３（開隆堂）
使用副教材	レタリング字典（秀学社）　他にプリント教材
評価基準	[知識・技能] ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・表現方法を創意工夫し，創造的に表している。→ 作品・定期テストなどで評価します。 [思考・判断・表現] 造形的なよさや美しさ，表現の意図と工夫，美術の働きなどについて考えるとともに，主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり，美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。→ 授業プリント・ワークシート・定期テストなどで評価します。 [主体的に学習に取り組む態度] 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。→ 課題への取り組み方・発表・学習態度・作品・準備物・提出物などで評価します。
学習内容	デザイン，立体感のある平面構成，暮らしとデザイン，漫画表現 様々な遠近法（空気遠近法，透視図法，日本の遠近法など），篆刻，抽象表現 絵巻物，屏風絵，工芸の世界，タイルモザイクアート，ガウディの作品群

２．指導計画

学年	科目	単元	項目	4月 上	4月 中	4月 下	5月 上	5月 中	5月 下	6月 上	6月 中	6月 下	7月 上	7月 中	7月 下	8月 上	8月 中	8月 下	9月 上	9月 中	9月 下	10月 上	10月 中	10月 下	11月 上	11月 中	11月 下	12月 上	12月 中	12月 下	1月 上	1月 中	1月 下	2月 上	2月 中	2月 下	3月 上	3月 中	3月 下
2年	美術	スケッチ	自分なりの見方や感じ方を大切にし、観察を深めてスケッチする。																																				
		私がイメージする世界（平面構成アイデア）																																					
		平面構成	伝えたいことや主張したい内容、表し方を工夫して平面構成を制作する。																																				
		暮らしとデザイン	＜デザインの基礎＞＜視覚伝達デザイン＞ ＜漫画表現＞																																				
		漫画表現	漫画の技法を使い、自分の思いや考えを人に伝わるように表す。					1学期中間考査					1学期期末考査									2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
		様々な遠近法	日頃見慣れた風景を視点を変えてとらえ、新たな表現の可能性を試みる。																																				
		見方を変えて																																					
		透視図法	透視図法、空気遠近法の仕組みを理解する。																																				
		空気遠近法																																					
		抽象彫刻	心のイメージを抽象であらわす。																																				
		水墨画の世界	日本の伝統的な絵画の世界を知る。																																				
		手づくりの楽しみ	タイルを使ったモザイクで実用性のあるものを制作し、美しい形や色を工夫する。手づくりのよさを味わう。																																				
		モザイクアート																																					
		工芸の世界	生活を支える工芸品や生活雑器などについて知る。																																				

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学①（数式）	3	2年

1．学習の到達目標等

到達目標	・下記学習内容を理解させ，基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。特に，計算力を育成すること。 ・学力推移テストで偏差値 55 以上が取れる習熟度を目指す。
目標達成のための留意点	・授業の復習を中心とした自立した家庭学習を定着させるための「適切な課題と点検」を計画的・意図的に行うこと。 ・具体から抽象への移行は大人が考える以上にハードルが高いことを念頭に置き，表面的な指導に終わらせず，本質的な理解を目指すこと。 ・生徒の主体的な学習を促すため，AL 型授業の活用など生徒集団の資質に応じた授業展開を工夫すること。
教科書	これからの数学2（数研出版），これからの数学3（数研出版） これからの数学2探究ノート（数研出版），これからの数学3探究ノート（数研出版）
副教材	体系数学Ⅰ代数編（数研出版），体系数学Ⅱ代数編（数研出版） 体系数学問題集Ⅰ代数編（数研出版），体系数学問題集Ⅱ代数編（数研出版）
評価方法	定期考査，小テスト，提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また，課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し，総合的に評価する。
授業内容	1．1次関数 具体的な事象を調べることを通して，比例，反比例，1次関数についての理解を深めるとともに，関数関係を見いだし表現し考察できるようにする。 2．式の計算 整式の性質，四則計算について，さらに深める。 3．平方根 数の平方根について理解し，数の概念についての理解を深める。 4．2次方程式 2次方程式の解法を理解し，それを用いて事象を考察できるようにする。 5．関数 $y = ax^2$ 関数 $y = ax^2$ のグラフの特徴や性質を理解する。 6．データの活用 データを適切に整理して，傾向を読み取り，それを活用することができるようにする。 7．確率と標本調査 いくつかのものを並べたり，いくつかのものを選ぶ方法が何通りあるかを求める方法を学び，それらを用いて，ある事柄の起こりやすさの程度を数値で表すことができるようにする。

2. 指導計画

		4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
科目	項　目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
数学①	1次関数					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
	式の計算																																			
	平方根																																			
	2次方程式																																			
	関数 $y = ax^2$																																			
	データの活用																																			
	確率と標本調査																																			

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学②（図形）	2	2年

1．学習の到達目標等

到達目標	・下記学習内容を理解させ，基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。特に，定義・平行線の性質・三角形の相似条件などを用いて図形の性質を理解させることにより，論理的な考え方や表現力を育成する。 ・学力推移テストで偏差値 55 以上が取れる習熟度を目指す。
目標達成のための留意点	図形について，観察，操作や実験などの活動を通して，直感的な理解を深めるとともに，「なぜ？」を大切にし，論理的に考察し，表現する力の育成を目指すこと。
教科書	これからの数学2（数研出版），これからの数学3（数研出版） これからの数学2探究ノート（数研出版），これからの数学3探究ノート（数研出版）
副教材	体系数学Ⅰ幾何編（数研出版），体系数学Ⅱ幾何編（数研出版） 体系数学問題集Ⅰ幾何編（数研出版），体系数学問題集Ⅱ幾何編（数研出版）
評価方法	定期考査，小テスト，提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また，課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し，総合的に評価する。
授業内容	1．三角形と四角形 平行線や三角形（二等辺三角形，直角三角形など），四角形（平行四辺形など）の性質を明らかにし，その性質を活用できるようにする。 2．図形と相似 平行線と線分比，三角形の相似条件について学び，それを基にして図形の性質を論理的に考えることができるようにする。また，相似な図形について，相似比，面積比，体積比の関係を理解する。 3．線分の比と計量 線分の比の性質を学び，そこから様々な図形の性質を理解する。 4．円 円に関する性質を理解し，具体的な場面で活用できるようにする。 5．三平方の定理 三平方の定理について理解し，それを図形の計量に活用できるようにする。

2．指導計画

		4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
科目	項　目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
数学②	三角形と四角形		■	■		1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
	図形と相似				■		■	■	■	■																										
	線分の比と計量										■						■	■	■																	
	円																			■		■	■	■	■		■									
	三平方の定理																												■	■	■	■	■		■	

教科	科目	授業時数	対象学年

技術・家庭	技術分野	1	2年

1．学習の到達目標等

到達目標	● 生活に必要な基礎的･基本的な知識及び技能を修得することで、望ましい生活習慣を身に付けるとともに、勤労や家庭生活の尊さや意義についての理解を深める。 ● 進んで生活を工夫し想像しようとする態度を身に付け、家庭や地域社会の一員としての自覚をもって自分の生き方を考え、生活をよくしようとする意識を持つ。 ● 仲間の発想や意見を取り入れ、物や技術の価値を自ら判断し、社会の変化に対応したり、主体的に身の回りの技術を活用したり、新たな技術を創造したりする力を身に付ける。
目標を達成するための留意点	● 実践的･体験的な学習活動を中心に、課題解決のための工夫する姿勢や技能を身に付けます。授業で得た知識や技能を、生活に繋げられるように意識して授業に臨んでください。 ● 課題解決のための工夫の方法はたくさんあります。仲間と協働して学習し、アイデアを拡げていきましょう。 ● 実習には危険を伴います。自分と他人を傷つけてしまわないように、安全対策を十分に行い、事故が起きないように全員で注意しあいましょう。
使用教科書	「New 技術・家庭 技術分野 明日を創造する」（教育図書）
使用副教材	プリント教材　他
評価基準	● 毎回の授業に意欲的に参加し、それぞれが課題を持ち解決しようとすること。 ● 授業内容や実習内容について理解し、定期考査等で表現できること。 ● 製作する作品や、提出物を自分なりの工夫を加えて完成させ提出できること。
学習内容	1．材料と加工の技術（A） ・ 材料の技術と加工の技術を見つけよう ・ 金属の特性と加工方法（空き缶ネームプレート製作を通した金属加工実習） ・ 構造を強くする工夫 ・ プラスチックの特性 ・ 木材の特性と利用 ・ 設計のしかたを知ろう（立体図の書き方） ・ 設計に沿った製作をしよう（A4 ファイルボックスの製作） ・ 社会の発展と材料と加工の技術 2．生物育成の技術（C） ・ 生物を育てる技術を見つけよう ・ 生物を育てる技術を知ろう

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年	技術	A 材料と加工の技術	材料の技術と加工の技術を見つけよう		■			1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
			金属の特性と加工方法			■	■																																
			構造を強くする工夫						■																														
			プラスチックの特性								■																												
			木材の特性と利用									■																											
			設計のしかたを知ろう						■						■																								
			設計に沿った製作をしよう																■	■	■	■	■		■	■	■		■										
			社会の発展と材料と加工の技術																												■	■							
		B 生物育成の技術	生物を育てる技術を見つけよう																														■	■					
			生物を育てる技術を知ろう																																■		■		

教科	科目	授業時数	対象学年
技術・家庭	家庭分野	1	2年

1．学習の到達目標等

到達目標	自分や家族の食生活や住生活に関心をもち、課題をもって日常食又は地域の食材を生かした調理などの活動について工夫して調理ができる。また、自分の住生活を見つめ、これからの生活を展望し、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を身につける。
目標を達成するための留意点	「B食生活と自立」(1)(2)(3)においては、心身ともに健康で安全な食生活のための食育の推進を図る視点から，食生活の自立を目指し、中学生の栄養と献立、調理や地域の食文化などに関する学習活動を重視する。 「B食生活と自立」(6)(7)においては、主に住居に関心をもち、問題点があればそれを改善する工夫を考えたり，自分や家族の住生活をさらに豊かにするための工夫を考えたりするなど，課題をもって調査や改善などを行い，住生活をよりよくしようとする意欲を持つ。
使用教科書	「技術・家庭 家庭分野 生活の土台　自立と共生」(開隆堂)
使用副教材	プリント教材　他
評価基準	「B食生活と自立」(1)(2)(3)においては，食生活と栄養について関心をもち、課題を見付け、その解決を目指して工夫できること。また食品の選び方に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、安全と衛生に留意して調理操作ができること。 「B食生活と自立」(6)(7)においては、住居と社会生活とのかかわりや計画的な活用の必要性を理解し、目的に応じ個性を生かす生活の工夫、適切な選択ができること。
学習内容	B　衣食住の生活 【食生活分野】 (1) 食事の役割と食習慣 (2) 中学生に必要な栄養を満たす食事 (3) さまざまな食品とその選択 (4) 日常食の調理 (5) 地域の食文化 (6) 献立づくり (7) 持続可能な食生活

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2年生	家庭	B 衣食住の生活	(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴		■	■	■	1学期中間考査	■				1学期末考査										2学期中間考査					2学期末考査									学年末考査		
			(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事							■	■	■		■					■																				
			(3) 日常食の調理と地域の食文化																	■	■	■			■	■	■												
			(6) 住居の機能と安全な住まい方																										■			■	■	■				■	
			(7) 衣食住の生活についての課題と実践																															■	■		■	